

●大根川の水質は?

大根川の水質

大根川は、大根地区(小田急東海大学前)を流れる小河川で、弘法山を源としています。

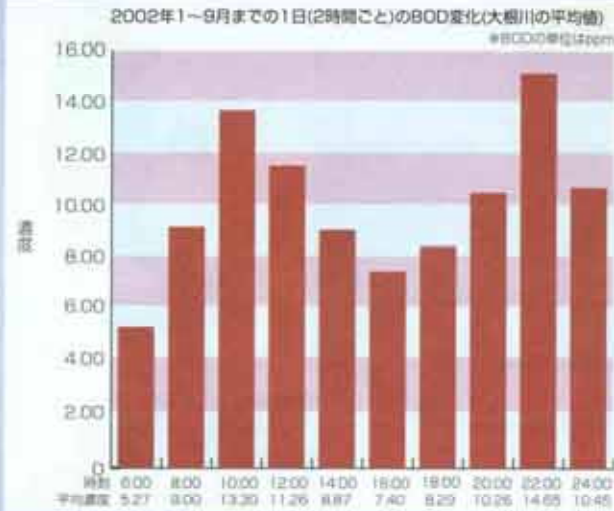
大根川の現状は、自然水が少なく、流れている水のほとんどが流域の生活排水から成り立っています。さらに下水道の設置がないため、家庭の汚水が直接流れ込んでいます。

河川の水質状況を示すBOD値(*)は平均で11.6ppmと他の河川よりも非常に高くなっています。また、一日の水質変化を調べてみると、10時と22時に、BOD値が20ppm前後になり、汚染が一番ひどく、朝の6時頃は、比較的きれいな状態です。これは大根川の水質が、流域の人間生活に非常に大きな影響を受け、大きく変化していることを意味しています。

このように、一日の水質変化を調べると、河川がどの程度人間活動により汚染されているかが分かることもよくあります。

*BODとは「生物化学的酸素要求量」の事です。この数値が高いほど、その場所が主に人間活動由来の有機物質で汚れていることから、微生物が汚染物質を分解しようと水中の酸素を消費するために酸素不足になることを意味します。

(藤野研究室：堀尾、岡田、中園、若槻、斎藤、三島、中村)



作ろう!

富士山が見えるのは?

金目川流域に共通する特徴と言えば、大山が見えることがあげられると思います。金目川の源流である大山は流域のほとんどの場所から眺められ、誰からもふるさとの山として親しまれています。

もう一つ、富士山がよく見えるというのも、流域の特徴と言えるのではないのでしょうか。平塚宿を描いた安藤広重の東海道五十三次の浮世絵にも、高麗山の右側に富士山が描かれています。東海道から富士山が見えるなんてことがあるのかなと半信半疑だったのですが、ある冬の日注意して歩いていたら、現在の国道1号線と旧1号線が合流するあたり、つまり平塚宿の京見附のあたりでビル

流域の自然マップ

平塚市博物館 浜口哲一



平塚市博物館からの富士山(2002年10月22日)

の隙間にちゃんと富士山が見えることを知りました。

皆さんのお宅や通勤途中からは富士山が見えるのでしょうか?ここからも富士山が見えるという情報、自慢のビューポイント、富士山を写した写真などをお寄せください。地図の上にその情報を載せて、この誌面で紹介したいと思います。

遠望がきくということは、澄んだ空気があって初めて可能なことです。たまには遠くの山にも注意を向けてみましょう。

*情報がありましたら、下記のくネットワークの窓口>までお寄せください。

Q 金目川水系流域の市や町のシンボルは何ですか?

A 金目川水系流域ネットワークでは、平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町の5つを流域としています。それぞれの市や町は、特徴のある花や木、鳥を、市民や町民のシンボルとしています。

	花	木	鳥
平塚市	ナadeshiko	クスノキ	シラサギ
秦野市	ナadeshiko	サザンカ	ウグイス
伊勢原市	キキョウ	シイ	ヤマドリ
大磯町	ハマビルガオ	クロマツ	カモメ
二宮町	カンナ	ツバキ	

どんな花や木、鳥なのか、図書館や図鑑などで調べてみるとおもしろいですね。お店で見たり、市役所や町役場に行って調べることもできます。

●お地蔵様から勝興寺まで、善波太郎の昔から明治のミカン伝来の話まで、見るもの聞くものに愛嬌心あふれる郷でした。ミカンの実り色と、上空を舞う数羽の猛禽類にみとれていたら迷子になってしまった。(佐々木)

●ウォーキング「太郎の郷さんぽ」。当日、心配された雨も降らず、予定通り実施出来、「せせらぎ通信」vol.4の表紙を飾ることが出来良かったと思います。(嘉悦)

編集後記

●今回写真を引き受けました。それなりに考えながら撮影し、帰宅。ところが、写真は全て未露光、別のカメラを持って2度目のウォーク。一人で急ぎながら、ゆっくりと歩いてきました。(横溝)

●今回も流域散歩に参加できず残念。楽しそうな記事がうらやましい。次回こそはと願うのみ。でも編集に関わり収穫多し。デザインソフトの知識が身につく。今度はデザインセンスを磨きたい。(二見)

金目川水系 せせらぎ通信

Vol.4

編集：金目川水系流域ネットワーク世話人会 発行：神奈川県湘南地区行政センター 発行日：2002年12月10日



★今回の目的地 伊勢原市善波地区



いにしへの姿を今に伝える「太郎の郷」

「太郎の郷」さんぽ道中記

伊勢原市善波地区を訪ねて

「善波太郎にまつわる伝説」

時は平安時代末期、この地善波に善波太郎という人がおりました。太郎の家はこの辺きっての豪族でしたが、使用人のちこめと恋仲になり、そのことが父の怒りにふれ、故郷を捨てなければならぬことになりました。太郎は身重なちこめを連れて旅立ちました。その途中にわかに産気づきかわいいう男の子が生まれました。その子に松若といふ名前を付けましたが母子共に相次いで亡くなってしまいました。

太郎は坂東(関東のこと)諸寺を巡礼し、再び帰ってきましたが、父母は太郎を捜しに旅に出た途中で相次いで病に倒れ亡くなり、家はすでに家臣の仲光・俊光兄弟に奪われており、太郎は身売りをさせられました。

めぐりめぐって紀州熊野新宮の六太兵衛の家に売られていきましたが、六太兵衛は太郎の人品卑しからざるを見、その力を試そうとして、

「この真山に入って猪と雉を捕ってきなさい」と命じました。その山中に相模国阿夫利山の石尊権現と天狗が現れ、太郎への助力を告げ猪と雉となつて六太兵衛のもとに行きました。六太兵衛はえらく驚き、太郎のふしぎな力に感じ入り、その娘竹美姫と結婚させました。

その後、太郎は石尊権現より授かった雷電落・至端の二太刀と共に、諸神の庇護のもと、七百余騎をもって逆臣仲光・俊光兄弟を討ち取りました。



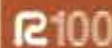
出典「善波八幡社縁起」より要約

<ネットワークの窓口>

神奈川県湘南地区行政センター企画調整課
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-1
TEL 0463-22-2711 内線212~214 FAX 0463-23-0599
E-mail shonanac.0024.kikaku@pref.kanagawa.jp

★情報誌の編集スタッフ募集

金目川水系流域ネットワーク世話人会では、一冊にこの通信を作ってくださるスタッフの方を募集しています。興味のある方、やってみようと思える方は、左記のくネットワークの窓口>までご連絡ください。



公益財団法人湘南地区行政センター

お知らせ

金目川水系流域フォーラム 2003

～金目川水系流域の自然と暮らしを考える～

- 日時：平成15年2月1日(土) 13:00～15:30
- 場所：平塚市中央公民館4F小ホール(参加自由・入場無料)
- 内容：金目川水系流域で活動するグループや東海大学の学生による活動発表と参加された皆様との意見交換会

金目川水系流域ウォーキング 「太郎の郷」さんぽマップ

善波川は、善波峠に水源をもつ約3.6kmの河川です。伊勢原西部の田畑をうるおして、平塚市真田境で大根川に合流し、金目川水系流域の一部を形成しています。

DATA
 歩いた日/平成14年10月26日(土) 9:00~
 目的地/伊勢原市善波地区「太郎の郷」
 天候/曇り 参加人数/約20名
 行程/大住団地西側広場→太郎の力石→善波川河床うもれ木→
 矢倉沢往還→三嶋神社→膳興寺(「太郎の郷」についてのお話)
 主催/金目川水系流域ネットワーク
 <スタート地点(大住団地西側広場)へのアクセス>
 小田急小田原線「鶴巻温泉」駅北口バス停より大住台経由「伊勢原駅北口」
 バス「坪之内」バス停下車徒歩2分



膳興寺
 1577年開山の禅寺。ご本尊「薬師瑠璃光如来」は南北朝時代の寄木づくり、玉眼、漆箔の座像で台座には1698年仏師広映による修理の銘があります。本堂わきの湧き水が有名。参道のあじさいもみごとです。



三嶋神社
 1185年創建。鎌倉時代、この地に居をかまえた豪族善波太郎重氏の居館跡。江戸時代に社を改築したとき地中の石室が見つかり、中に二振りの太刀があったといひます。春の大祭は3月26日前後の日曜日。したれ桜も有名です。



高台からは、相模平野が見渡せます。



ウォーキングの感想

- ◆歩いてみて、車のときと全く違ったものが見えました。一本の谷筋にできた地域と違って、幾筋もの谷が集まり善波川となっていました。単なる緑に見えた山には、多くの種類の植物が生きています。ここにもう一本道路を通る必要はない、造ってはいけないと思いました。(橋瀬)
- ◆身近なところに残っている豊かな自然、歴史を愛しました。今後に残していきたいと思ひます。
- ◆雨にも降られず、とても良い半日でした。また歩きたいです。

善波の古道を歩いて...
 丹沢大山崎の会会員・無色の会会員 芝山ISA0
 古道は嬉しいこと楽しいこと 沢山つまって ドラマを秘めて... 竹林は潮と風が触れるのを待つ クリ・ドングリ・あけび・草花 心は少年にかえる

太郎のちから石
 石の上部に善波太郎が力踏みした時の下駄の跡がのこっていると伝えられています。



歴史の息吹を感じるね。

下駄跡を石に印すは強力と今に伝えし善波の太郎 飯塚正晃

うもれ木(神代杉)
 旧石器時代このあたりに茂っていた森林が大洪水でおれ、赤土層にうもれたまま炭化したものが長い間の川の流れて現れたものです。

導水トンネル
 昭和のはじめ、地元の飯塚亀蔵さんという人が善波川の水をひくため鏡とろうそくを使った独特の工法で掘った水路です。



現在大住台1丁目を流れている善波川



この先の善波峠は足柄峠とならぶ難所で、茶屋がおかれ夜は常夜灯がともされた。時には「追いはぎ」もでたといひます。關所が矢倉沢(南足柄市)にあったのでこの名でよばれています。

矢倉沢往還
 奈良時代のころ開かれた古東海道で、江戸赤坂から多摩川、厚木をへて伊勢原の高森、白根、神戸、串橋、坪ノ内、善波を通り秦野、足柄峠、駿河国に達する街道。江戸時代は大名の参勤交代、物資の輸送、大山参詣の旅人でにぎわった。

これなお話も聞きました!

善波氏の500年

下郷谷の郷谷氏の分家筋で、西暦1100年頃に善波左衛門善氏が善波大松山に居を定めたのが始まりです。左衛門善氏と太郎重氏については、源太入道が著した小冊子を後にこの地を治めた地頭が漢文体で書き残した「善波八幡社縁起」に明記されています。
 太郎入道の子又次郎は、建長六年(1254)鎌倉幕府の小侍所衆に召し抱えられ、要人の警固に努めました。観応元年(1350)善波太郎有胤は、高師冬と上杉憲朝との戦で足利基氏を警固し、基氏から恩賞を受けます。応安元年(1368)善波十郎左衛門尉胤久は、宇都宮と武蔵平一揆を討伐する土肥入道に同行し、忠節を尽くします。永徳元年(1381)には、下野の宇都宮氏と小山氏の不和を忠告しましたが、聞き入れなかった小山氏は宇都宮基綱を討ってしまいます。そのことに怒った足利氏満は小山義政討伐に出陣し、これに同行します。応永三十三年(1426)善波藤太郎憲有は、武田八郎信長討伐の大將一色持家を警固します。
 善波氏は、200年間小侍所衆に召された時の責を忘れず幕府に貢献しました。善波禰直になってから戦乱から離れ、先代の供養に専念するようになりました。天正十一年(1583)北条氏忠から善波村三島社に宮免二貫文、天正十九年(1591)には社領一石を賜りましたが、この時には善波氏は活躍の場を他に求め他郷に移っていました。(飯塚文平氏 談)



「太郎の郷づくり協議会」

設立:平成元(1989)年
 会員数:平成14年10月現在120名

会の名称は、この地で活躍した「善波太郎」に因んでつけました。活動としては、史跡周辺整備、花木植栽、散策道整備等を行っています。これらの活動を通して私達自身が誇りを持って語ることのできるふる里づくりを目指しています。昨年度は、県の千年樹植栽事業に参加し子供達と共にみみじ等の植え付けをしました。また伝承として伝えられていた「太郎のちから石」を安置し、周辺を整備しました。

●**地域での取り組み**
 この地に今、国道246号線のバイパス及びそのインターチェンジの計画があります。私達は、地域の緑地自然環境をどのように生かして行くかの観点のもとに、新たな景観の創造など、開発と環境のありようについて提言をまとめ、担当部局との折衝を行っています。

●**提案**
 21世紀は環境の世紀だといわれていますが、あなたは環境について考えたことがありますか?環境や自然をどう定義すればいいのか考えてみませんか?

●**連絡先**
 〒259-1106 伊勢原市善波497 飯塚正晃方
 Tel.0463-95-2236 Fax.0463-95-7590